

音楽

音楽科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
【表現】 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。	【鑑賞】 音楽の良さや美しさを味わって聴き、言葉で表現する力を身に付ける。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	発声方法について理解し、正しい発声方法で歌うことが課題である。ア 鑑賞した楽曲について、言葉で表現することに課題が見られる。イ	発声方法については口の開き方や発音の仕方等を、手を使って動きを付けながら覚えさせる。また、範唱を多く行う。 鑑賞に興味をもたせることができるように、視聴覚教材を吟味し、教材・教具を工夫する。	毎時間 鑑賞の授業時	基礎的な発声を身に付けさせることができた。鑑賞は映像やスライド、プリントを工夫し生徒の興味関心を引き出すことができた。
第2学年	リコーダーの曲に関して、運指は分かるがリズムや音の長さについて課題が見られる。ア 曲の良さ美しさ、特徴等について、考える力に個人差が見られる。イ	リコーダーでは、教材を工夫し、音符や休符の長さを分かりやすくし、音源を聴いたり、歌ってリズムを覚えたりする活動を毎時間取り入れる。 鑑賞では生徒が興味・関心をもてるような資料作りをする。	リコーダーの授業時 鑑賞の授業時	教材の工夫はリコーダーを演奏する技術の向上には効果を発揮したが、楽譜を読む機会が減り楽曲理解に課題が残った。鑑賞は生徒の興味・関心を引き出すことができた。
第3学年	リコーダーの運指やリズムに関して、理解する力に課題が見られる。ア 興味・関心をもって聴くことはできるが、よさを自分の言葉で表現する力に課題が見られる。イ	リコーダーは補助プリントを用意し、運指が視覚的にも分かりやすくなるよう工夫する。リズムについては、歌いながら指を動かす活動を取り入れる。 鑑賞では資料の内容を吟味し、その曲や作曲家についての紹介文を書く活動を取り入れる	リコーダーの授業時 鑑賞の授業時	歌いながらリコーダーを練習することによって、楽曲の持つニュアンスを再現することができた。鑑賞した楽曲やその作曲者の紹介文を書く活動を通し、言葉で表現する能力を引き出すことができた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>1学年 Google Classroom に各学年で取り組んでいる合唱曲やリコーダーの曲の参考音源を投稿し、音源を聴きながらリズムや運指を確認する作業を個人で行う。【重点:個別】</p> <p>2 学年 ロイロノートを活用し、クラス全体の意見を共有できるようにする。【重点:協働】</p> <p>3学年 GarageBand を用いてキーボードでの音程やリズムの確認を個人練習を行う。【重点:個別】</p>	<p>【全学年】 毎時間自己評価シートを記入し、学習の前後で自分がどのように変化したか、何を学んだかを確認する。 実技テストの後にも必ず振り返りを書き、今の自分の課題や、次の実技テストや今後の演奏活動に必要なことは何か考えさせる。</p>

